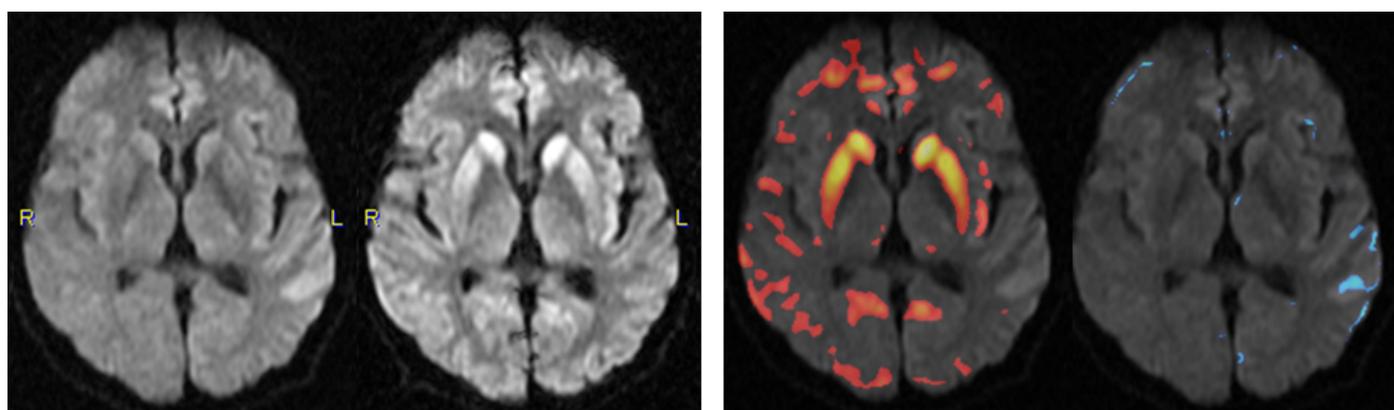


プリオン病早期病変の経時的変化の客観的評価法

研究分担者: 岩手医科大学医歯薬総合研究所超高磁場MRI診断・病態研究部門 佐々木真理

早期クロイツフェルトヤコブ病(CJD)患者の拡散強調画像(経時的変化)



拡散強調画像
(初回)

拡散強調画像
(2回目)

病変出現部位
(214 cm³)

病変消退部位
(12 cm³)

解 説

1. 画像統計解析法を用いて、MRI拡散強調画像におけるプリオン病早期病変の経時的変化の客観的評価法を実現しました。
2. 本手法によって、2回目の検査で出現した病変は赤色、消退した病変は青色で示されており、早期CJDの特徴を明確に捉えています。
3. 本手法は、本症の診断基準を策定する上で有効な指標となることが予想されます。